



ラッセル氏



蘭氏

# アラウンド・ザ・ワールド 2

*Around the World*

第113回

## 保険におけるウェルビーリングの定量化 後編

アラウンド・ザ・ワールド Part 2 の 11  
3回目は、英国バイオバンクの後編。  
(RGA 再保険会社提供)

前回の前編では、研究の方法論および従来のリスクファクター BMI を掘り下げた。後編の本稿では歩行速度や歩数といつた新たなリスクファクターを取り上げ、同研究の影響を考察する。

### 歩行速度・普通死亡に対する顕著な予測力

図1は、UKバイオバンク参加者（60歳未満男性全員）における自己申告による歩行速度と死亡リスクの相関関係（従来のリスクファクターは調整済）を示す。歩行速度の遅い人に比べて、歩行速度が平均的な場合は40%、歩行速度が速い場合は死亡リスクが50%低下する。この顕著な相関関係は、どのデータサブセットでも見られる。

この相関関係は以前か

ら報告されていたが、被保険者のさまざまな団体においても共通して見られる点が注目に値する。

さらに、自己申告による歩行速度を UKバイオバンク参加者のベースモデルに取り込むと、死亡リスクに対するモードルの予測力は約2%上昇し、この指標が従来のリスクファクターを超えた価値を

亡リスク予測力は、収縮期血圧を自己申告による歩行速度で置き換えた場合、若干上昇する。同様

な効果が総コレステロールの場合にも観察され、

UKバイオバンクのコホートにおいて、自己申告による歩行速度が収縮期血圧や総コレステロールに対するモードルの予測力を有することが示唆される。

しかし、自己申告に

ある歩行速度で BMI、

そして喫煙状況をそれぞ

れ置き換えた場合は、モ

ドルの正確性が低下する

ため、この二つの従来の

リスクファクターが高い

重要性を持つことがうか

がえる。一般に、この分

析結果はどのデータサブ

セットでも共通して見ら

れる。ここで、歩行速度

に関するデータは、客觀

的に測定されたものでは

なく、自己申告であるこ

とに留意し、研究結果は注意深く解釈されるべきである。

歩数も予測力が高い？

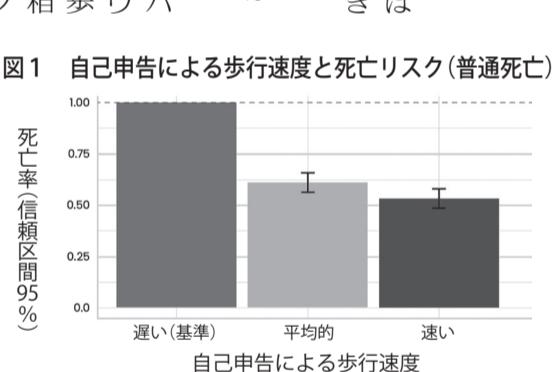


図2 歩行速度の予測力の量化

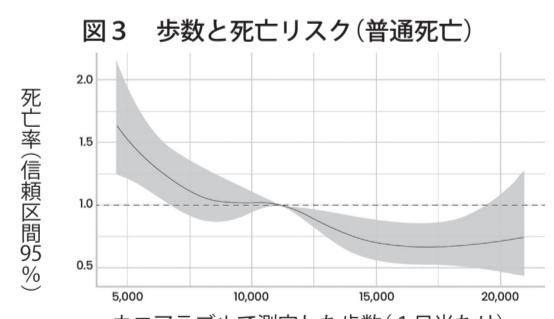
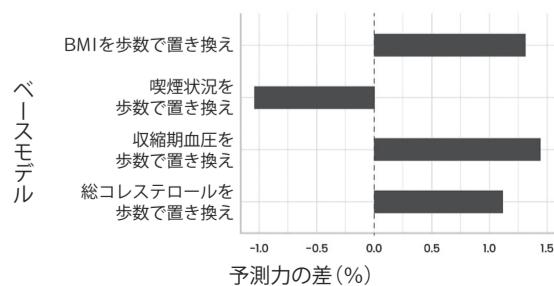


図3 歩数と死亡リスク(普通死亡)



日本語訳	日本語監修	執筆者	リチャード・ラッセル
RGAリインシュアランスカンパニー日本支店	エグゼクティブ・ディレクター ビジネス・ディベロップメント部	RGAグローバル・リサーチ＆ディベロップメント部門	キシヤン・バクラニア
盧東旭（ノウ・ドンウク）	盧東旭（ノウ・ドンウク）	ヴァイス・プレジデント ヘッド・オブ・ヘルスデータ・アナリティクス	トム・イエイツ
レスター大学教授	山本あゆみ	リチャード・バイオメトリック・データサイエンティスト	トム・イエイツ
RGAリインシュアランスカンパニー日本支店 通訳	盧東旭（ノウ・ドンウク）	ベースモデル	トム・イエイツ

一方で、喫煙状況を歩数

よりも高い予測力を有

することが示唆される。

一方で、喫煙状況を歩数

よりも高い予測力を有

ることが示唆される。

一方で、喫煙状況を歩数

よりも高い予測力を有

ることが示唆